

がんばる

Chubu

観光地域づくり編

昇龍道の中部エリアで展開される「観光地域づくり」を紹介する特集。

今回のエリアは三重県伊賀市。忍者の里で繰り広げられるインバウンド誘致活動や、三重大学ではじまった本格的な忍者研究が観光地域づくりに新しい風をもたらす様子を紹介する。

## 観光客呼び込みの術!! 忍者を生かした観光戦略が発動



### 忍者からNINJAへ! インバウンド拡大に向けた伊賀市の取り組み

#### NINJAを世界へ。全国のゆかりの地が連携

訪日外国人観光客が増加を続ける中、クールジャパンの象徴とも言える忍者に国内外から熱い視線が注がれている。2015年には、日本各地の忍者に関わりのある自治体、観光協会、団体、大学などが集結し、鈴木英敬三重県知事を会長とする「日本忍者協議会」が設立。忍者の学術研究、情報の収集・発信、観光・文化の振興、地域経済の活性化を目指して動きだした。

今では「NINJA」で通じるほど海外でもポピュラーな存在となった忍者。同協議会が2016年にヨーロッパとアジア10カ国で行った調査によると、対象国すべてにおいて97%以上が認識していることがわかった。その認知度や人気から、忍者は観光誘客のキラーコンテンツになり得るものと期待されている。

#### 忍者を観光資源とした地域おこしのはじまり

忍者の里として、真っ先に名があがるのは三重県の伊賀市だろう。伊賀流忍者発祥の地としてこの地が知られるようになったのは、故・奥瀬平七郎元上野市長(2004年

の合併で伊賀市)の功績が大きい。奥瀬元市長は、市役所の職員時代から忍者研究に励み、1952年に地元開催の「世界子ども博覧会」において忍者を紹介。その後、テレビやラジオ出演、多くの著書の発刊や雑誌への寄稿などを通して伊賀流忍者の認知度アップに尽力した。

それに伴い、忍者にまつわる観光施設を求める声が此処彼処から聞こえてくるようになり、1964年に上野市観光協会(現・伊賀上野観光協会)が「忍者屋敷(現・伊賀流忍者博物館)」を開館した。ちょうどその翌年、名阪国道が開通し、マイカーブームと相まって忍者屋敷を訪れる観光客数はうなぎ登りにあがっていった。観光協会は以降、忍者屋敷とイベント開催を通じて、数十年をかけて忍者を観光資源として定着させていった。

さらに2001年から、忍者屋敷というスポットだけでなく、観光客に街中にも足を延ばしてもらおうと、地域が



伊賀上野NINJAフェスタの参加者はファミリー層と女性がメイン

一丸となり「伊賀上野NINJAフェスタ」の開催をはじめた。毎年春、観光客が忍者衣装で街を練り歩き、道場で忍術体験が楽しめるイベントとして、今では伊賀市の風物詩として人気を博している。

### グローバルに進化する忍者の里



伊賀流忍者博物館の手裏剣打ち体験は外国人観光客に大人気

現在、伊賀流忍者博物館を訪れると多くの外国人観光客を目にする。外国人来館者数を取りはじめた2003年度の約1,000人から2017年度は約30,000人と大幅に増加し、総来館者数の15%を占めるまでになった。その背景には外国人の誘客拡大を図る取り組みの活発化がある。

中でも注目したいのは、2014年から開始した「忍者パック」と呼ばれる忍者体験ツアーだ。セントレアから

入国する外国人観光客の多くが、愛知から岐阜方面に向かい、三重に来る客が圧倒的に少ない状況に観光関係者は頭を抱えていた。そこで、観光協会、



漫画家の松本零士氏がデザインした忍者列車で伊賀流忍者博物館へ移動する忍者パックの参加者たち

津市の美杉リゾート、伊賀鉄道が連携してツアーを造成。忍者食の体験や、忍者に扮して伊賀鉄道の忍者列車と伊賀流忍者博物館を舞台に忍者の歴史と知恵を学びながら与えられたミッションをクリアしていく内容で、年間3,000人強が参加している。メディアにも何度か紹介され、「NHKスペシャル」で放映されるほど注目度は高い。

また最近では、鈴木知事が海外トップセールスで積極的に忍者をアピールするなど県の支援が活発化し、忍者を切り口とした観光戦略に追い風が吹いている。

## 三重大学の協力で観光地域づくりに新しい風が吹き込む

### リアル忍者の姿を三重大学が明らかにしていく

アニメや映画などの影響から、ヒーロー的存在として人々を魅了する忍者だが、そのイメージは後世になってつくられたものだ。隠密活動を得意とし、歴史の裏舞台で暗躍してきたため、参考文献は少なく真の姿は謎に包まれている。この状況を打開すべく、三重大学が本格的な忍者研究をはじめた。2012年に上野商工会議所、伊賀市とともに、「三重大学伊賀連携フィールド」という

組織を立ち上げ、人文学部の山田雄司教授を中心に忍者の真の姿を解き明かそうとしている。

伊賀連携フィールドでは、市民講座、トークイベント、国際シンポジウム、理系学部と協同した企画展などを開催し、研究によって得られた本来の忍者像や忍者の知恵を広く発信している。また、海外でも国際交流基金や



ブルガリアのソフィア大学にて開催された講座の様子

在外日本国大使館、大学などとの共催により、これまで15カ国で講座を開催している。「どの会場も早々に定員

に達し、海外での忍者人気は驚くほど高い。アニメの影響が大きいですが、武術への関心から忍術に興味を持つ場合も多い。日本人と比べると、『日本のどこで修行ができるのか』『忍者の知恵を生かした医療を学べるところはないのか』など、本物志向や知的欲求の高さがうかがえる」と山田教授は海外での反響を語る。

**リアル忍者の意外な実態**  
山田教授によると忍者は本来、戦闘や暗殺よりも、スパイとして情報収集に長けた集団だった。寡黙なイメージとは異なり、喋り上手で、人と仲良くなることで情報を収集していた。芸人やお坊さんに扮することもあり、多種多芸でさまざまなコミニケーション能力を持ちあわせていた。また忍者を象徴する手裏剣も戦闘では使用しておらず、主な武器は石だった。お馴染みの忍者装束も歌舞伎の衣装として使われたものがスタンダードな忍者の装束として広まったそうだ。



2017年には、伊賀連携フィールド内に新たな組織として、「国際忍者研究センター」が設立。歴史的な文献から国内外のアニメ、映画、小説などあらゆる忍者文化を研究・発信し、国際的な忍者研究の拠点として伊賀市と世界を結び、伊賀市の活性化を目指して活動している。観光振興に対しても、世界から伊賀市へ忍者ファンを受け入れる環境づくりに学術的側面から支援を行っている。

### 産学官民連携で伊賀市の観光地域づくりが加速

今年の3月中旬から5月末まで、バンコクで「IGA NINJA DOJO」という大規模なイベントが開催された。主催者想定4倍もの集客があり、ラスベガスや香港からもオファーがきているそうだ。このように、世界で忍者ブームが巻き起こる中、伊賀市の忍者にまつわる受入環境は、伊賀流忍者博物館と伊賀上野NINJAフェスタくらいだ。伊賀市を訪れる外国人観光客は、年々個人旅行者が増加しており、リアルな忍者修行や忍者文化の体験を求める声が高い。そのため新たな受入環境の整備と体験メニューづくりが喫緊の課題となっている。

その課題解決策の一つとなるのが、日本航空、三重県、伊賀市、三重大学が連携し、2017年に立ち上げた『「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト』だ。忍者がかつて

修行で駆け巡った山々で「心技体」を体験する忍者トレイルランニングレースと、食や薬草など忍者の知恵を学びつつ、農業や伊賀焼の

「忍びの里 伊賀」創生プロジェクトの発足会

作陶も楽しめる二つのメニューで外国人観光客の獲得を目指していく。今年度からの本格始動に向けて、メニューの具体化や農家民泊の整備を進めているところだ。山田教授は、「メニューは参加するたびに修行のレベルあげが可能な内容にしていきたい」とリピート率の向上も考えている。

また2017年2月22日(日本忍者協議会が制定する「忍者の日」)には、岡本栄伊賀市長が伊賀市を「忍者市」と宣言した。忍者の里を築いてきた先人たちの精神



手頃な価格で人気の「伊賀牛炙り丼」は伊賀市内の9店舗で味わえる

を市民一人ひとりが継承し、オール伊賀で観光とまちづくりを推進していこうとしている。忍者市宣言に続き、伊賀・甲賀忍者の日本遺産登録、日本版DMO

の候補法人に観光協会が認定されるなど、観光地域づくりが本格的にはじまりだした。伊賀市には松尾芭蕉、伊賀焼、伊賀牛など多くの観光資源が存在する。今後は認知度の高い忍者を入口とし、これらの観光資源も効果的にプロモーションしていこうとしている。三重大学も一連の取り組みに対し、努力を惜しまず協力していく方針だ。

### 忍者をブームから文化へ定着させていく

伊賀市だけでなく全国の動きにも注目したい。日本忍者協議会では忍者ゆかりの地を結び、地域ごとに異なる忍者の特徴が比較できる周遊型と滞在型の忍者ツアーを売り出そうとしている。また同協議会は、リアル忍者の姿を文化として普及していこうと、全国に「忍者アカデミー」をつくる計画を進めている。今年の「忍者の日」に設立した「忍者 NINJA議員連盟」でも、リアル忍者について学べる冊子をつくり全国の小学校に配布する準備を進めている。

全国の忍者ゆかりの地では、受入環境の整備が急がれているが、忍者に対する正しい知識を備えたガイドやインストラクターが不足していることも課題となっている。リアル忍者を文化として普及していくことで、忍者に関心を抱き、正しい知識を得た人たちが増えていけば、人材の確保にもつながるだろう。そして今の忍者ブームが一過性で終わることなく日本を代表する文化として定着することも夢ではない。



山田教授は忍者協議会や忍者連達の取り組みにも監修者として協力している

文：総務部 櫻井 景子  
取材協力・写真提供：(一社)伊賀上野観光協会、伊賀市観光戦略課、三重大学人文学部 山田雄司教授



# 伊賀のまちなか“旅の指南書”

伊賀に行ったら訪りたい! 代表的な観光スポットをご紹介します!!

## い 伊賀流忍者博物館

世界一の忍術資料を誇る忍者博物館。「忍者屋敷」では忍者に扮したスタッフがさまざまなカラクリを案内してくれます。



「忍術体験館」「忍者伝承館」では本物の忍者道具や資料を見ることができます。忍者集団・阿修羅による迫力満点の実演ショーも必見。



## ろ 伊賀上野城

城づくりの名手、藤堂高虎により拡張・改修された城郭。石垣は日本有数の高さ(30m)を誇ります。



## は 俳聖殿

旅姿の松尾芭蕉を建築で表現した日本建築史上でも傑作との呼び声高い八角堂。



## に 旧小田小学校本館

三重県内で最も古い小学校校舎。昔の教科書、机、オルガンなどがあり、ノスタルジックな雰囲気に溢れています。



## ほ 史跡旧崇広堂

江戸時代、伊賀、大和、山城の領地に住む藩士の子弟を教育するために建てられた藩校。



## へ だんじり会館

毎年10月に開催する「上野天神祭(ユネスコ無形文化遺産)」の「だんじり」「鬼行列」を展示。



## と 芭蕉翁記念館

貴重な直筆の資料をはじめ、連歌や俳諧に関する資料を展示。



## ち 伊賀伝統伝承館 伊賀くみひも 組匠の里

和装小物として親しまれてきた伝統工芸品の伊賀組紐の展示。キーホルダーやブレスレットが作れる体験教室もあります。



## り 伊賀越資料館

日本三大仇討ちに数えられる伊賀越の仇討ち。鍵屋の辻の決闘に関する数多くの資料を展示。



## ぬ むらい萬香園

伊賀茶を扱う老舗のお茶屋さんですが、先々が最後の伊賀流忍者を研究し、忍者塾を開いていた事でも有名。店内には忍者コーナーが設けられ、忍者パフェなどのスイーツも人気。



## る 元祖伊賀牛 金谷本店

松阪牛、神戸牛にまさるとも劣らぬ伊賀牛を提供する創業100年を誇る老舗。名物の「寿き焼」「バター焼」は国内外の食通はもちろん、広く文人墨客から絶賛されています。

